

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：32707

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16100

研究課題名(和文) 公立図書館における障害のある子どものための情報アクセスに関する基礎的研究

研究課題名(英文) Support systems at Japanese Public Libraries for Children with Reading Disabilities

研究代表者

池下 花恵 (Ikeshita, Hanae)

相模女子大学・学芸学部・講師

研究者番号：50709847

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、公共図書館における読み障害児(dyslexia)の児童サービスについて、ヨーロッパと日本の取り組みを調査し、読み障害児のための図書館モデルを検討した。ヨーロッパの公共図書館では、読み障害児の支援として、読みやすい図書を提供するだけでなく、さまざまな分野のワークショップやイベントを通して、子どもたちが新しい知識や情報に触れることで新しい本に出会う機会を提供していた。また、図書館員のインタビューから、サービスの一部が自動化しているが、子どもとの対面コミュニケーションが重要であることがわかった。

研究成果の概要(英文)：In Europe, public libraries provide special facilities for children with reading disabilities, allowing them to see, read, or listen to books in various ways. This study investigated and compared support systems for children with reading disabilities at public libraries in Europe and Japan, focusing on support for children with dyslexia, including, for example, the availability of easy-to-read books. Information was gathered through interviews with librarians. After interviewing the European librarians working in children libraries, we found that each of them conducts originality events for children, where the children have the opportunity to discover various books. Children were able to acquire knowledge through these events and pursue knowledge using these newly-discovered books. It is suggested that adopting the concept of the European children's library to Japanese libraries might give all Japanese children the opportunity to read more books.

研究分野：情報アクセシビリティ

キーワード：公共図書館 ディスレクシア 障害児支援 読みやすい図書 アクセシビリティ

## 1. 研究開始当初の背景

読み書き障害 (dyslexia: 以下、ディスレクシア) とは、学習障害の一種であり、知的能力や基本的な知覚能力に障害が確認されないにも関わらず、文字の読み書きに困難を伴う症状である。ディスレクシアは、紙の印刷物から情報を得ることが困難であり、他の媒体で情報を提供できるようにすることが求められている。例えば、文字の情報を音声で聞くことができる、文字の拡大・色・書体の変更ができるなどのアクセシブルな電子図書の提供である。

ディスレクシアのように、紙の印刷物から情報を得ることが困難な状態をプリント・ディスアビリティ (print disability) と呼び、ディスレクシア以外にも、視覚障害、身体障害、知的障害、発達障害、認知障害などの人々が含まれる。

日本では、プリントディスアビリティの正確な人数は把握されていないが、ディスレクシアに関する全国の通常学級に在籍する児童を対象とした調査報告では、学習面で著しい困難を示す児童 4.5%、読みまたは書きに著しい困難を示す児童は 2.4% であると推定されている<sup>1)</sup>。

ヨーロッパにおけるディスレクシアの調査では、オランダ約 8%<sup>2)</sup>、ノルウェー 7.9%<sup>3)</sup>、デンマーク約 6.5%<sup>4)</sup> の子どもたちがディスレクシアであると推定されている。ディスレクシアは、教科書や図書の利用が困難であり、読書において多大な時間と労力を要する。

ヨーロッパではディスレクシアが図書にアクセスできる機会を提供するための支援として、読みやすい図書や出版物の製作、および図書館における読みやすい読書空間に関する取り組みが行われている。ディスレクシアの「読み」の困難さは個々に異なるが、読みやすい図書に対するニーズは、その多くが共通している。例えば、文字が読みやすい文章や分かりやすい絵本、録音図書やオーディオブック、拡大・代替コミュニケーション支援、支援技術としてコンピュータの利用などである。このように公共図書館における読みやすい読書環境は、ディスレクシアの子ども (以下、ディスレクシア児) が図書を通じて文化や情報へアクセスできる機会を拡大できる可能性がある。しかしながら、日本の公共図書館では、読みやすい図書の提供があるもののそのタイトル数は少なく、またディスレクシア児が利用しやすい読書環境や児童サービスは充実していない。

そこで、本研究では、ヨーロッパの公共図書館が導入しているディスレクシア児のための図書館モデルを調査し、日本の公共図書館での適用の可能性を検討することとした。

- 1) 文部科学省. (2012). 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査

結果について。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/material/\\_icsFiles/afieldfile/2012/12/10/1328729\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/_icsFiles/afieldfile/2012/12/10/1328729_01.pdf)

- 2) Statistics Netherlands (CBS). (2016, October 06). Slightly more children diagnosed with dyslexia. <https://www.cbs.nl/en-gb/news/2016/40/slightly-more-children-diagnosed-with-dyslexia>.
- 3) Norwegian Directorate for Education and Training. (2016). The education mirror 2016: Facts and analyses of kindergartens, primary and secondary education in Norway. [http://utdanningsspeilet.udir.no/2016/wp-content/uploads/2016/10/Utdanningsspeilet\\_2016\\_en.pdf](http://utdanningsspeilet.udir.no/2016/wp-content/uploads/2016/10/Utdanningsspeilet_2016_en.pdf).
- 4) Elbro, C., Møller, S., & Nielsen, E. M. (1991). Danskens læseferdigheder. En undersøgelse af 18-67-åriges læsning af dagligdags tekster. ('Adult Literary in Denmark: A Study of 18-67-year olds' Reading Abilities with Everyday Texts'). Copenhagen: Project Reading and the Ministry of Education.

## 2. 研究の目的

公共図書館における読みやすい図書の利用は、ディスレクシア児が図書を通じて文化や情報へアクセスできる機会を拡大する可能性がある。

本研究では、日本の公共図書館においてディスレクシア児が利用可能な図書、読書環境の整備、児童サービスの向上を目的とし、ヨーロッパと日本の公共図書館におけるディスレクシア児のための児童サービスを比較し、ディスレクシア児のための図書館モデルを検討することとした。

## 3. 研究の方法

本研究では、ヨーロッパおよび日本の公共図書館におけるディスレクシア児の児童サービスの取り組みについて、フィールド調査を行なった。また、調査結果をもとに、日本の公共図書館におけるディスレクシア児のための図書館モデルについて検討した。

(1) ヨーロッパの公共図書館におけるフィールド調査では、平成 27 年度に読みやすい図書 (Easy Reading Plaza, 以下 ERP) の導入が普及しているオランダおよびベルギーの公共図書館を対象にフィールド調査をした。また、教育サービス担当の図書館員 8 例を対象にインタビューを行った。インタビューでは、ディスレクシア児の具体的な読書支援の方法、学校図書館との連携、電子図書の利用や情報通信機器を活用した支援方法について調査した。

平成 28 年度は、前年度の継続調査としてノルウェー、スウェーデンおよびデンマーク

の公共図書館を対象にフィールド調査を行なった。また、図書館員 18 例に対してインタビュー調査を行なった。

(2) 日本の公共図書館では児童サービスおよび障害者支援サービスを行なっている公共図書館を対象にフィールド調査を行なった。また、図書館員 9 例に対して、ディスレクシア児のための児童サービスの現状、および障害者差別解消法の施行による公共図書館における合理的配慮の提供についてのインタビュー調査を行った。

#### 4. 研究成果

##### (1) ヨーロッパの公共図書館の取り組み

オランダおよびベルギーの公共図書館を対象としたフィールド調査の結果、オランダでは、公共図書館の約 8 割が ERP を導入していることがわかった。オランダでは、2002 年より公共図書館において、一般の図書とは別に PRD のある 8 歳～13 歳の子ども向けに、読みやすい図書を提供する読書支援コーナーとして ERP を設置するプロジェクトが始まった。ERP を導入している公共図書館では、特定の子どもを対象とした読書支援ではなく、障害の有無に関わらず、全ての子どもが活用できるように設置場所などを検討していることがわかった。また、図書館内の環境整備では、子どもが読書を楽しむためのスペースの確保や、目的の図書をすぐに見つけやすいような陳列方法が取り入れられていた。具体的には、以下の点が挙げられた。

- ・ 読みやすい図書には ERP のステッカーを貼る。
- ・ ディスレクシア児が読みやすい図書をすぐ見つけることができるように入り口の近くに配置する。
- ・ 読みやすい図書は、図書の内容が一目でわかるように表紙を見せ、面陳列をする。
- ・ 図書の分野ごとに色分けをし、陳列する。
- ・ ディスレクシアのための書体 (Dyslexia font) を使った図書やリーフレットを提供する。
- ・ 子どもがリラックスして読めるようにソファなどの設置をする。

オランダの公共図書館では、ERP を導入したことで子どもの利用者が増加していることがわかった。また、図書館員の意見では、ERP は特別なものではなく、だれもが利用できる読みやすい図書として考えることが重要であるという意見が多かった。

スウェーデンの公共図書館のフィールド調査の結果では、読みやすい図書の提供において、電子媒体における図書の提供が充実しており、利用者の環境に合わせて電子図書が利用できるように、さまざまな媒体が提供さ

れていることがわかった。また、子どもの教育向けの絵本アプリなども充実しており、障害の有無に関わらず、子どもが読書をする機会をさまざまな形で提供していることがわかった。

スウェーデンの公共図書館では、1992 年より特別な支援を必要とする子どもたちのために「りんごの棚」の設置がスタートし、国内の大規模公共図書館の多くに導入された。

この「りんごの棚」の取り組みでは、特別な支援を必要とする子どもたちが利用できる図書を豊富に提供し、図書に触れる機会を多く提供していた。スウェーデンでは、ほとんどの公共図書館に「りんごの棚」が導入されており、子どもから大人まで利用できるように利用者が気付きやすい位置に「りんごの棚」が設置されていた。また、スウェーデンに在住する外国の子どもが読めるようにバイリンガルで書かれた図書の提供、サインランゲージ (Sing language) の図書や案内版などがあった。

ノルウェーの公共図書館のフィールド調査の結果では、ノルウェーでも「りんごの棚」を導入している公共図書館があり、スウェーデンの公共図書館と同じように、図書の種類も豊富であった。また、「りんごの棚」までの道案内として、「りんごの棚」のシンボルであるりんごのステッカーを床に貼付し、入口から「りんごの棚」までの道順がわかるように工夫されていた。

ノルウェーのオスロでは、これまでにない新しいアプローチとして 10 歳から 15 歳までの子どものみ利用できる公共図書館が 2016 年 4 月に開館された。この公共図書館では、児童生徒のための放課後の活用の場として、図書の提供だけでなく、コンピュータ、ブック、ペーパークラフト、3D プリンター、クッキングなど子どもたちがいろんな角度から学ぶことができるツールが用意されていた。さらに、数学、国語、プログラミングなどさまざまな講座が開講されていた。また、音楽のライブや映画上映なども行われていた。さらに、子どもたちが、リラックスできるようにソファやゲームボードなども設置されていた。この図書館では、子どもたちがこれらの学びを通じ、さらに知識を得るために図書を利用できるようになることを目的としていた。

デンマークの公共図書館のフィールド調査の結果では、子どもたちの学習を支援するための「Homework café」が行われていた。

「Homework café」は、放課後の時間を利用して学校でも実施されている。公共図書館では、事前に指導を受けたボランティアのスタッフが、子どもたちの学習指導を行っていた。また、デンマークでは、ディスレクシア児が利用できるアクセシブルな電子図書を約 50,000 タイトル以上提供していた。これらの

電子図書は、専用のアプリを使用し利用することもできる。また、図書館員の意見では、サービスの一部が自動化しているが、子どもとの対面コミュニケーションが重要であることがわかった。図書館の役割として、図書の提供以外に、ディスカッションの場として地域になくってはならない存在であることがわかった。

## (2) 日本の公共図書館の取り組み

日本の公共図書館を対象としたフィールド調査の結果では、ディスレクシア児への対応については、個々の困難さに合わせた支援や学校教育での電子図書の利用を普及させる取り組みがなされていた。しかしながら、すべての公共図書館で実施を実現するには、多くの課題があるとの意見が多かった。

児童サービスでは、視覚障害のある子どもへの支援が中心であり、ディスレクシア児への支援が十分ではない可能性があることがわかった。さらに、日本の公共図書館では児童サービスが少ないことから、児童サービスの整備を求める意見が多かった。

今後の課題として、学校図書室との連携、読みやすい図書の不足などの課題が挙げられた。ディスレクシア児への支援方法について、ディスレクシア児の困難さにどのように支援をすべきか、検討しているという意見が多く得られた。

ヨーロッパの公共図書館では、ディスレクシア児の支援として、読みやすい図書を提供するだけでなく、さまざまな分野のワークショップやイベントを通して、子どもたちが新しい知識や情報に触れることで新しい本に出会う機会を提供していた。このことから、日本の公共図書館においても、児童サービスの充実を図るとともに、子どもとの対面コミュニケーション、子どもたちの居場所の環境づくりが重要であることがわかった。

## 5. 主な発表論文等

〔国際会議論文〕(計 1 件)

Hanae Ikeshita-Yamazoe. (2016). Easy-To-Read Books for Children with Dyslexia in Public Libraries, The European Conference on Literature & Librarianship 2016 Official Conference Proceedings, 67-74. 査読有.

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

池下 花恵 (Hanae Ikeshita)

相模女子大学・学芸学部・メディア情報学科・講師

研究者番号：50709847